

森づくりサポーターニュース

令和元年（2019年）12月20日号

びわこ地球市民の森（森づくりセンター）

〒524-0102 守山市水保町2727 TEL 077-585-6333 FAX 077-585-6312
メールアドレス biwako@moridukuri.info URL <http://www.moridukuri.info>

新しい時代に期待される森のあるべき姿 (シリーズ3)

今年も後わずかになりました。5月から新時代の令和が始まり、10月22日には『即位礼正殿の儀』が執り行われました。「ラグビーワールドカップ2019日本大会」では、日本代表が初めてベスト8を突破し、日本中が沸き返りました。

秋の訪れは遅く、台風19、20号等で関東や東北などでは大きな被害が出ましたが、本公園は数本の倒木被害ですみました。しかし、サポーターの皆さんと楽しみにしていた10月12日の第3回サポーター活動は、残念ながら台風19号のため中止になりました。

さて、難しい標記テーマの3回目になりますが、1、2回と新たな施設の紹介や夏秋の生長した森の様子や特徴を載せました。2001（平成13）年から『平成の森づくり事業』としてスタートした本公園ですが、20年を目前に、今年から「令和の森づくり」として再スタートを切りました。

実、花ものも落葉樹、常緑樹に分け、植樹した樹木を分類すると、落葉樹：常緑樹はほぼ7：3になります。ふれあいゾーンで西側に大きな常緑樹林区域を造りましたので、その他のゾーンや区域はさらに落葉樹の割合が高くなっています。紅葉・黄葉や落葉後の冬の森は全体に明るく見通しが良くなります。冬の森の見どころや観察点としては、木々の幹肌の特徴や枝振りを観ること、冬芽や葉痕の観察、タンポポ、ハルジオンなどのロゼットを持つ草本植物、昆虫、野鳥などの観察などがあります。また、見てほしい場所として、出会いのゾーンの標高99mの「モリモリ山」から「木橋（陸橋）」、「展望台」の3点セットがあります。この辺りは、「エドヒガン」（サクラの1種）が植えられており、まだまだ間伐を繰り返しながら、木々を大きくしていく必要があります。うまく透かしていけば、頂上や展望台からの眺めは素晴らしいビューポイントになります。



「モリモリ山」山頂



木橋



展望台からの眺め

また、東近江市の「河辺いきものの森」にある「林冠トレイル」の頂部によく似た感じの木橋を通る時には、クヌギやコブシなどの比較的上部の枝の冬芽や花芽、今年なった実などを間近に観察でき、植物に興味湧いてくるとおもいます。



クヌギの冬芽



コブシの花芽

樹木生長調査結果報告

びわこ地球市民の森では、既存木が生育するふるさとゾーンを除く4つのゾーン（出会い、里の森、ふれあい、つどいの各ゾーン）で、平成13年から25年までの13年間に90種160,967本の苗木を植樹し、今後の育樹や本数管理の基礎資料とするため、79か所のプロット（5m四方）を設定して3年毎（平成23年度までは2年毎）に樹高調査を行っています。

今回は、令和元年度の調査か所（21プロット）のうち代表的なエリアについて調査結果を報告します。

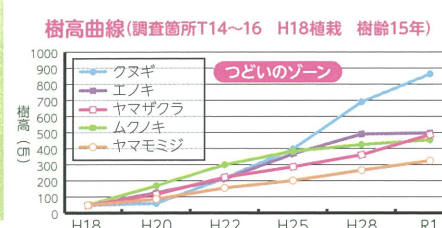
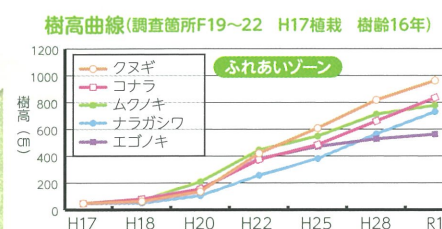
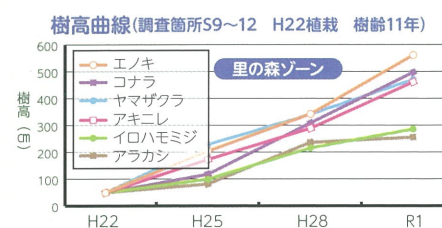
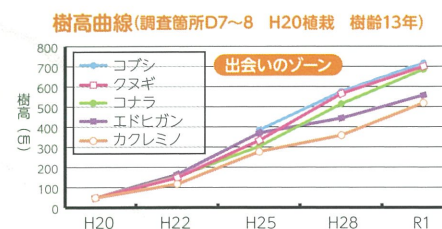
1. 調査内容

出会いのゾーン3か所、里の森ゾーン5か所、ふれあいゾーン10か所、つどいのゾーン3か所、計21か所（プロット）の樹木の樹高を測定し、生長推移や生育本数等を調べ、今後の管理方法を考察した。

なお、標準とする樹高・生育本数の数値は、「地味の低い土壌条件下で生育した樹林のデータによる予測」（「地味の低い土壌条件下のデータ」（緑化・植栽マニュアル、中島宏著）を参考とした。

2. 調査結果

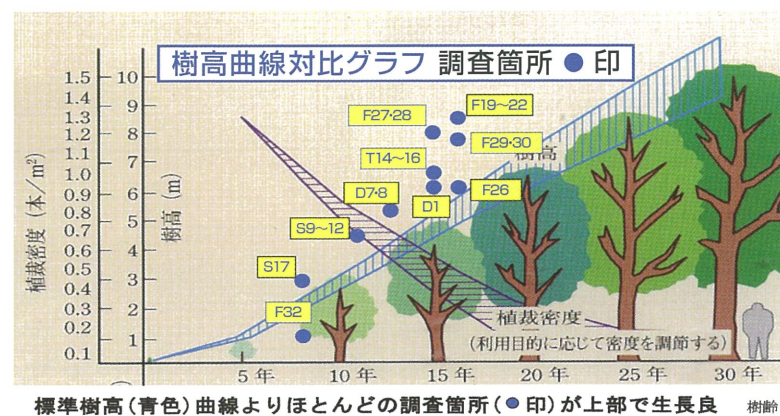
- 出会いのゾーン**
 - モリモリ山とその周辺の森で、平均樹高は5～7m（標準4～5m）で生長が良い。
 - 生育本数は20～60本/100m²で、ほぼ標準である。
- 里の森ゾーン**
 - S9～S12はエノキ、コナラの生長が良く、アラカシ、イロハモミジの生長が悪い。
 - 生育本数は、S12を除いて少ない傾向である。S17は120本/100m²で、間伐が必要である。
- ふれあいゾーン**
 - F32以外は全体的に生長が良い。特にクヌギが9m強に生長している。F32は土壌条件が悪く、生長が不良である。
 - 生育本数は平均30～40本/100m²で標準である。
 - 常緑樹のか所F26は樹高、本数ともほぼ標準である。
- つどいのゾーン**
 - クヌギの樹高が8m強で、他の樹種を圧倒している。
 - 生育本数は33本/100m²でほぼ標準である。



3. 考察

- 樹高は「地味の低い土壌条件下のデータ」に比べて平均3割程度生長が良い。
- 生育本数は全体的に多く、今後さらに計画的な間伐の実行が必要である。
- 樹木の生長とともに形状比(*)の大きい木（直径に比して樹高が大きく気象害等に弱い木）を選別するため、今後は胸高直径（胸の高さの直径）を重視する必要がある。

*形状比は樹高(cm)を胸高直径(cm)で割った値で80を超えると気象害に弱く70以下が望ましい。例えば、樹高14m(1400cm)、直径(20cm)の場合、形状比は70となる。



登録サポーター（月一活動）団体の紹介

「協働の森づくり」をうたう「びわこ地球市民の森」の育樹活動は、森づくりサポーターの皆様の協力により行っております。特に、概ね毎月参加いただく、「登録サポーター団体」の皆様により、滞ることなく着々と、枝打ちや間伐・除草などが進められています。

また、5月に開催される「森のつどい」では、森の手入れで得た枝や間伐材等を使った、森のクラフトなど、体験ブースでご協力をいただいています。

令和元年9月現在の登録団体を、紹介します。（登録順、〔 〕内は登録年）

ふくの会（レイカディア大学（レイ大）29期園芸）〔2008〕、さんまる会（レイ大30期園芸）〔2009〕、森楽（森好き、子ども好き有志）〔2009〕、みいの会フォレスト（レイ大31期園芸）〔2010〕、32期園芸（レイ大32期園芸）〔2011〕、レイカ33会（レイ大33期園芸）〔2012〕、みろく会（レイ大36期園芸）〔2014〕、レイカ36会（レイ大36期園芸）〔2015〕、みなの会（レイ大37期園芸）〔2016〕、レイカ37会（レイ大37期園芸）〔2016〕、はやのの森探検隊（地域連携速野学区有志）〔2017〕、花の38会（レイ大38期園芸）〔2017〕、ENG39A（レイ大39期園芸）〔2018〕、LBK39（レイ大39期びわこ環境）〔2019〕

以上の14団体で、さらに2団体が活動開始準備中です。

主な活動

春：「森のつどい」に向けて打合せ・準備
「森のつどい」での体験ブース出展



夏：間伐・除草など
秋：間伐・除草など



冬：間伐・シイタケの菌打ち・「森のつどい」に必要な材料（丸太・竹）の切り出し



その他の活動



ハマヒルガオ群落除草



自然学習サポート



四季桜手入れ



速野学区民のつどいクラフト体験



竹林手入れ



間引いた竹の再利用（炭焼き）



森の小道づくり



時には勉強会

情報交換会

毎年1月下旬に各団体の代表者が参加し、情報交換会を開催しています。近況報告や森づくりセンターへの要望、提案などを行っています。

年を重ねてきたため、体力のことや参加メンバーの減少も話題となっているようです。

楽しく朗らかに、体調に合わせて、無理なくご参加ください。



第3回サポーター活動が台風の影響で中止となりましたが、サポーター活動にこだわらず、気晴らしに、気軽に公園へ来て、歩いて、森を眺めてください。

森の癒し効果

森や木の物に対して、本人が主観的に「好きじゃない」「快適でない」と思っている、身体の生理反応は、ややリラックスや鎮静化、最低でも緊張には傾かない、という結果が出ているそうです。(浜田久美子著「森がくれる心とからだ」より)

お知らせ

第4回森づくりサポーター活動のご案内

早春の森が、みなさんのお越しをお待ちしています。

開催期日 令和2年3月7日(土)

開催場所 びわこ地球市民の森(里の森ゾーン)

活動内容 植栽地の育樹活動と自然教室など



編集後記

今年は元号が令和となり、新しい幕開けとなりました。巻頭ではシリーズでこれからの森のあるべき姿を、見所満載に紹介しています。

一方、今年は2度の台風に見舞われ、サポーター活動が中止や室内活動になるなど、天候に大きく左右されました。自然は私達に恵みとともに、時には大きな試練を与えます。森を守り健全に育てることは、災害に強い国土を造りあげます。私達もまずは身近な森から、元気で強い森づくりに力を入れていきたいです。来年もどうかサポーターの皆様のご協力、よろしくお願いします。

森のデータ

森の面積	42.5ha
森の延長	3.2km
森の幅	100～200m
植樹面積	80,808㎡
植樹期間	H13～H25
植樹活動参加者数	44,994人
植樹本数	160,967人
森への利用者数(H30)	186,720人
森づくり活動参加者数(H30)	7,445人
うち育樹活動参加者数(H30)	2,846人